

新規実施項目のお知らせ

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、新たに下記の項目を受託開始いたしますのでご案内いたします。
ご利用いただきますよう、お願い申し上げます。

記

■実施日 平成30年 9月 1日（土）ご依頼分より

■新規実施項目

項目 コード	検査項目	検査 方法	基準範囲 (単位)	検体量 (mL)	容器	保存	所要 日数	実施料	判断料
6413-02	オートタキシン	FEIA	下記参照	血液 3.0	X	室温	2～5	194	144 (生 I)

オートタキシンの判定基準(カットオフ値)

判定	(mg/L)	
	男性	女性
①肝線維化進展例※	0.910	1.27
②肝硬変	1.69	2.12

(東ソー試薬能書より)

- ①より高い検体は、肝線維化進展例と判定します。
②より高い検体は、肝硬変と判定します。
※C型肝炎治療ガイドライン(第5.4版)の「肝線維化 F2 以上」にあたります。

● オートタキシン

初期の肝線維化を判別できる新しい血中マーカーです。

オートタキシン(ATX)はリン脂質代謝酵素であり、リゾホスファチジルコリン(LPC)を分解し、臓器の線維化を引き起こすことが知られているリゾホスファチジン酸(LPA)を産生します。線維化などの肝障害によりATXの代謝阻害が起こることでATXが血中に滞留し、さらにLPAが上昇し線維化が進みます。

以上より、ATXは肝線維化の初期段階から病態を把握でき、Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体よりも早期に上昇するという報告もあります。

また、画像診断で判別しにくい初期の線維化を判別できる血中マーカーとして有望視されています。

▼ 疾患との関連

肝線維化

肝硬変

▼ 関連する主な検査項目

Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体

ヒアルロン酸

▼ 留意事項 (中医協より)

1. 本検査は、サンドイッチ法を用いた蛍光酵素免疫測定法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の繊維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。
2. 本検査と区分番号「D007」血液化学検査「37」のプロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)同区分「38」のⅣ型コラーゲン、同区分「40」のⅣ型コラーゲン・7S、同区分「44」のヒアルロン酸、同区分「48」のMac-2、結合蛋白糖鎖修飾異性体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。